

# 同志社大学

## 2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年3月19日提出

所 属	職 名	氏 名
日本語・日本文化 教育センター	助教	荒井 美幸
研 究 題 目	1. 留学生の日本語母語話者との接触による経験・気づき・変化のプロセスの研究 2. コスタリカ在住日本語教師の日本語教育ネットワーク参加後の行動変化の調査	
研 究 成 果 の 概 要	<p>1-1. 研究の目的と方法</p> <p>同志社大学日本語・日本文化教育センター「総合Ⅲ」クラスと「口頭表現BⅣ」クラス内で行う「伝え合いの活動（日本人学生会話ボランティアをクラスに招いたグループディスカッション）」において、日本語を学ぶ中級前半レベルの留学生（以下、学習者）が日本語母語話者と接することで、どのような経験・気づきがあり、日本語学習の動機づけにどのような影響があるかを考察する。</p> <p>通常講義の中で、1学期間に「口頭表現BⅣ」クラスでは3回の「伝え合いの活動」を行っており、各活動終了時に「伝え合いの活動感想シート」を課している。その感想シートの自由記述部分をデータとして使用し、質的分析を行う。</p> <p>1-2. 研究成果と次年度への展望</p> <p>2012～2014年度に得られたデータを手書きデータからデジタルデータへ変換し、データの分析を行っている途中である。2015年度も継続してデータを収集し、前年度今年度のデータに加えて分析を行っていく予定である。15年度中には報告書をまとめ、その結果を次年度の講義に生かしていきたい。</p> <p>2-1. 研究の目的と方法</p> <p>中米・カリブ日本語教育ネットワークに参加しているコスタリカ在住のネイティブ日本語教師とコスタリカ人日本語教師を対象に、ネットワーク参加前と参加後の意識や行動の変化を調査し、中米・カリブ日本語教育ネットワークがどのように機能しているか、また、コスタリカにおいてネットワークに広がりが見られるかを明らかにする。</p> <p>コスタリカの中米・カリブ日本語教育ネットワーク参加日本語教師を対象に、聞き取り調査を行う。半構造インタビューを採用し、録音、文字化、分析を行う。</p> <p>2-2. 研究成果と次年度への展望</p> <p>昨年度、中米諸国の国別調査を行う前段階として、第4回日本比較文化学会中部支部大会において発表を行った「海外の日本語教育ネットワーク形成に関する考察—中米・カリブ地域を中心に—」を研究論文にまとめ、日本比較文化学会『比較文化研究』No. 110に掲載された。今年度は国別（コスタリカ）インタビューが実施できなかったため、来年度計画を練り直し、実施したい。</p>	